

高雄日本人学校の風

校長 高口和治

10月1日(火)

前期終業式での私の話の概要です。「前期、個人も集団も大きく成長しました。目標を具体的に立ててください。いろんな行事もあります。後期は、特に中3は90日くらいしかありません。バンコク日本人学校の話をつつもして申し訳ないけど、日本人学校の子ども達は卒業しても、しなくても、その後のつき合いがすごく深い。それは、これからの行事や普段の生活でぶつかったり、何かを作り上げたりする。その経験が、その後の濃いつき合いにつながっていくのだと思っています。」

午後は、月1回の学校運営委員会がありました。9月と10月前半での学校の出来事を報告、PTAまつりの寄付状況の報告をしてきました。児童・生徒数と学校の収入は密接に関係しているため、財政的な検討も常にしています。昨年度2月の児童・生徒数の予測と実際が20人ほど違うために決算見込みも当然違ってくるという報告もしてきました。

10月12日(水)

お昼休みにグラウンドではプラカード練習や行進、国旗掲揚練習などが始まり、多くの子どもが先生方と練習していました。「右、左、右」(少々合わない子どももいます。ま、まだ何日もあるし)とか「地面を蹴って歩いて」などの声が響いていました。中華民国の国旗もはやくも行進練習で使われていました。優勝旗も持った「つもり」の行進練習です。

私は、安城先生から子ども達、保護者、幼稚園児合わせて300人以上が集まるであろうから、安全に気をつけることは何かのレクチャーを受けました。基本的なグラウンドの構造は了解しています。ただ、芝の地面の下に何か「あり」でしょうか、生き物らしきものがあります。体育の時間はよく手を洗うように指示をだしているとのことでした。

10月13日(木)

2時間目に運動会の全体練習がありました。行進、国旗掲揚、ラジオ体操、宣誓など一通り行いました。最初なので、右足と右手が一緒に出してしまう子どももいて、本人が歩きながら修正をしていました。二人で挨拶をする場面は、かなり難しいのですが、今日はちょっと合いませんでした。こつを伝授しているところです。こんなこともありました。中華民国国旗と日本国旗が行進の先頭になります。このまま本部前にくると、見えるのが裏返しになってしまう、と試してみたら、本部前であげませんでした。私は「いいか」と思って、「じゃこのままいこう」と意思表示をしました。そうしたら、中学部3年生の何人かが「校長先生、やっぱり上にあげた方がかっこいい」高口「もちろんかまわないけど、裏返しになって、中華民国国旗の青い部分が下にくるのは避けてくれ」というような会話をしました。お昼休みに実際やってみようということになり、その場は分かれしました。

(決まり切った部分や約束をすでにしてしまったのは、その通りにする必要があると思います。行進での国旗の本部への見せ方のように、絶対こうしなければならないということがなければ、日本でも世界でも正解はないので、検討を加えればいいと考えます。)

3時間目は、中学部2年の自習監督に行きました。指示は、ワークをやるというものです。私は、このたよりを書きながら一時間いました。みんな熱心に取り組み、疑問がでたら、近くの人と周りに迷惑にならないように話し合っていました。終了して男子が一言「つかれた」自習で疲れるなんて素晴らしい(それだけ集中していたってことですから)。

10月14日(金)

1時間目に全体練習がありました。昨日と比べると当たり前ですがすごくよくなりました。中華民国、日本の国旗をあげるのもピシッと決まりました。行進がつまったりするのはこれから修正です。行進も膝がよくあがっていました。右足右手一緒だった人はいなかったようです。担任の先生は、きっと1人1人見ているのでどのようにした方がいいとアドバイスをくれると思います。

台湾鉄路と日本人 交通新聞社新書 片倉佳史

2010年2月15日 第1刷発行

5年生の社会科見学についていった関係で、台湾での製糖について紹介している文を探していました。

p 104

台湾南部の製糖工場と新渡戸稲造

製糖産業は戦前、戦後を通して、台湾経済を支える基幹産業であった。現在でも、台北から列車に揺られ、高雄方面に向かっていると、嘉義を過ぎたあたりから、車窓にサトウキビ(甘蔗)畑が見えてくる。(略)

日本統治時代初期、総督府は「工業の日本」に対し、「農業の台湾」という構図を描いていた。そして、台湾中部の彰化を境に、北は米作、南はサトウキビ栽培という構図が存在した。

(略) 1900年高雄に近い橋仔頭(現橋頭)に台湾製糖株式会社の工場が設立され、翌年から操業が始まった。

(略) 台湾製糖は屏東に本社工場をもち、大日本製糖は虎尾、明治製糖は麻豆、鹽水港製糖は新営に拠点を置いていた。

(高口) 確かに、5年生と行った屏東の台湾製糖工場の跡地はすごい広さでした。また、烏山頭近くの麻豆では、製糖工場跡が広場になっていて、文旦まつり(9月)をやっていました。この本は鉄道の本です。紹介してあるように、確かにベルギー製の蒸気機関車がおいてありました。烏山頭には、ドイツ製の機関車がおいてありました。どちらも、実際使った物だそうです。